

総合科学の基礎C  
哲学思想の基礎

2018/04/20  
そもそも「哲学」とは②

### 前回の要点

- 哲学Philosophyの語源は、「知識愛好」というギリシア語。
- 「知識」としては、およそすべての学問領域。
- 知識は普遍を目指す。
- 今日の予定
  - コメントを取りあげて、論理的文章の書き方を説明。
  - 新たな概念として、哲学における神、TrueとRight、Knowledgeとbeliefなどを取りあげる。

### 学生のコメント

- 「思う」「考える」「感じる」「印象を持った」
  - 理由を書くようにしましょう。
- 「私はプラトンの哲人政治に賛成する。人類**平等**は**大切**だが、**知恵ある**リーダーが**国**を引っ張ることが国民を**幸福**に導くと**考える**。」
  - 青字で書いた概念を具体的にはどのように理解していますか？
  - たとえば「平等」と一言で言っても、結果の平等・機会の平等・可能性の平等など、さまざまな議論がある。

### なぜ質問するのか

- 哲学は人生においてどんな役に立ちますか？
- アリストテレスはクジラは哺乳類だと言っていたというが、なぜアリストテレスは海についての知識を知る必要があったのか？
  - 授業との関連で( )を説明するようにしてください。
    - たとえば、「アリストテレスは哲学者なのに、なぜ～」という問いなら、どう答えたらよいかわかる。
  - 「なぜ」という問いには、さまざまな答え方がある。
    - 目的・動力・材料・形相(本質): (アリストテレスの「四原因説」)

### 哲学の神

- 自然科学的に見て、神は存在しない。
- 学問的な神について先生はどう考えますか。
  - 「プラトン・アリストテレス・キリスト教」が西洋思想の三本柱。
  - 中世哲学は、キリスト教とアリストテレスの諸学問を整合させるために行われた。
    - アリストテレスの神: 第一原因。不動の動者。善美。
    - キリスト教の神: 創造神。全知全能・無限。善美。
    -

### 哲学と人生観

- 哲学を辞書を引いてみると、「人生・世界、事物の根源のあり方・原理を、理性によって求めようとする学問。また、経験から作り上げた人生観」とあった。
  - 哲学について「人生観・価値観」などの意味が広まったのは
- 出典: 遠藤智雄「哲学」の訳語考、『英学史研究』第26号、1993年



### KnowledgeとBelief

- 日本語の「認識」: KnowledgeとBeliefの両方の意味で使うようだ。
- 哲学では、両者は反対概念。
  - 正しい知識: Episteme
  - (社会全体の)思い込み、俗説: doxa
- プラトン哲学のポイントの一つ: 「ドクサ(Common belief or popular opinion)を脱して正しい知識へ」

### どうして「人それぞれ」がこんなにも蔓延しているのか？

- おそらく、戦前の「価値観の押しつけ」「権力による強制」への反省。
- しかし、「人それぞれ」などと言っていると、強い者が勝つ。
- 戦前的な「押しつけ」「強制」への対抗としては、「人それぞれ」教育は失策。
  - 『コピペと言われないレポートの書き方』あとがきを参照。

### 今日の宿題

- 授業へのコメントをmanabaで送信。
- 締め切りは火曜日の17時。(総合科学入門の宿題の次の日)。
- 授業のまとめ、意見・質問、それらの根拠と理由、質問の場合は自分なりの回答とその根拠。
- 次回も、配布資料を自分で印刷するのを忘れないように。